学校番号	409

平成３１年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「新詳 世界史Ｂ」　（帝国書院）						
副教材等	自作プリント等						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史的事象の因果関係によく注目して、なぜその出来事が起こったのかという流れを理解しましょう。
・教科書・ノートなど毎回忘れ物のないように授業に臨みましょう。
・グループワーク等では、グループ内で積極的な意見交換を行いましょう。
・授業を通して、歴史的事象に対する自分なりの意見・考えを持てるようにしましょう。

２　学習の到達目標

１　世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させる。
２　文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きるための自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究するとともに，国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見いだし，文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに，国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	世界の歴史についての諸資料を収集し，有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに，追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	世界の歴史についての基本的な事柄を,我が国の歴史と関連付けながら理解し,その知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 発表 ノート･プリントなど	学習状況の観察 発表 ノート･プリントなど 定期考査	学習状況の観察 ノート・プリントなど 定期考査	学習状況の観察 ノート・プリントなど 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	諸地域世界の形成と交流	世界史への扉	○		○		a：それぞれの主題に対し，意欲的に取り組もうとしている。 b：教科書の問いかけに対し，自ら考えつつ，教科書の文章や，グラフ・絵・地図から適切な解答を見つけて発表できる。 c：グラフや絵・地図などから適切な内容を読み取ることができる。 d：それぞれの主題が設定された理由を考え，理解することができる。	観察 発表 ノート・プリントなど 定期考査
		オリエント世界と地中海世界の形成	○			○	a：オリエント・地中海両世界とそれをまとめあげたヘレニズムおよびローマについて関心をもち，追究している。 b：オリエント世界と地中海世界の風土・社会・政治・文化・宗教について比較し，その共通点と相違点を示すことができる。 c：地図などの各種資料を活用して，各地域における特色と相違点を把握できる。 d：オリエント・地中海両文明の特色を理解している。	観察 発表 ノート・プリントなど 定期考査
		南アジア世界の形成 東南アジア世界の形成		○ ○		○ ○	a：各世界が多様性に富むことに興味をもち，追究している。 b：各世界の多様性や独自性を，民族・風土・宗教などの視点をふまえつつ総合的に考察している。 c：諸王朝の変遷や他地域との交流，社会構造を読み取ることができる。港市国家成立の背景を，地図などの各種資料から把握できる。 d：各世界の風土・政治・社会・文化について総合的に理解している。	観察 発表 ノート・プリントなど 定期考査

		東アジア世界のあけぼの 中央ユーラシア世界の形成と展開 東アジア世界の変動と再編	○	○ ○		○ ○ ○	a: 東アジア世界における，多様な古代文明の発生と，その中での日本の位置づけに関心がもてる。 b: 古代文明の成立から変動期における，思想・文化について歴史的背景から考察し，表現できる。 c: 地図を用いて，遊牧民の移動や東西交易に果たした役割を把握できる。 d: 中華王朝と遊牧民の活動を関連づけて理解している。中華王朝と周辺諸国の関係を理解している。	観察 発表 ノート・プリントなど 定期考査
2学期		イスラーム世界の形成と拡大	○	○			a:狭義の宗教には収まらないイスラームの“社会性”に関心をもてる。 b: イスラームが地域・民族をこえて拡大できた理由とその影響について考察し，表現できる。 c: 資料・地図などを活用して，イスラームの特色・広がりを考察できる。 d: イスラーム成立の背景と，地域・民族のわくをこえて拡大する理由について，イスラームの普遍性という観点から理解できている。	観察 発表 ノート・プリントなど 定期考査

		ヨーロッパ世界の形成		○		○	a: ゲルマン人とスラヴ人の移動，イスラームの地中海進出，ビザンツ帝国の動向がヨーロッパ世界の形成につながったことに関心をもてる。 b: ヨーロッパにおける地域差を比較し，その共通点と相違点を考察できる。 c: 地図などの各種資料を活用し，ヨーロッパ世界の形成と変容のようすを把握できる。 d: ヨーロッパ社会の形成を封建社会の成立と変容，教皇権と皇帝権や王権との対決などの観点から総合的にとらえることができている。	観察 発表 ノート・プリントなど 定期考査
		ユーラシア大帝国の出現		○		○	a:ユーラシア大陸の大部分を支配したモンゴル帝国の成長・発展の過程について関心をもち，追究している。 b: モンゴル帝国と交易の活性化の関係について，またモンゴルが南進に手間どった理由について考察し，表現できる。 c: 地図を用いて，モンゴルの活動によってユーラシア大陸の内陸交易と海上交易が一体化したことを指摘できる。 d: モンゴルによりユーラシア大陸が一体化したことで，ユーラシア規模で人の交流やものの流通が起こったことを理解している。	観察 発表 ノート・プリントなど 定期考査

	海洋による世界の一体化	″2部　海洋による世界の一体化 1 章　アジア諸地域の栄華と成熟″		○		○	a:東アジアにおける明・清を中核とした国際関係と，イスラーム諸王朝が各地で独自の文明を成熟させたことに関心をもち，追究している。 b: どちらも多民族国家であり，世界帝国であったオスマン帝国と清の外交や内政のあり方を比較考察し，表現できる。 c: 地図などの各種資料を活用して，各地における特色と相違点を指摘できる。 d: 明・清を中核とした国際関係と，ヨーロッパ人のアジア進出，各地で独自の文明を築いたイスラーム諸王朝について理解している。	観察 発表 ノート・プリントなど 定期考査
3学期		2 章　大規模な分業体制の成立	○			○	a:「大航海」・ルネサンス・宗教改革がヨーロッパ世界に変革をもたらし，新たな時代が展開されていったことに関心をもち，追究している。 b:「大航海」により始まった西欧中心の世界の一体化が，現代の南北問題の起点でもあったという点を考察し，表現できる。 c:主権国家・重商主義などの言葉を概念図などを用いて表現できる。 d:近代世界システムの概念を理解するとともに，ヨーロッパ内部では，主権国家体制が形成されていったことを理解している。	観察 発表 ノート・プリントなど 定期考査

		3 章　西ヨーロッパの覇権争いと世界的な分業体制の拡大		○		○	a:ヨーロッパ各国それぞれの変革と，主権国家体制について関心をもち，追究している。 b: 各国の変革と近代的な国際関係の成立を理解する。また，英仏の覇権争いがなぜ世界各地に及ぶものであったのかを考察し，表現できる。 c: 地図や図表を利用して，ヨーロッパの国境の変化や，英仏の世界規模での覇権争いなどを指摘できる。 d: ヨーロッパ各国が状況に応じた変革を行っていく中で，近代的な国際関係が形成されていったことを理解している。	観察 発表 ノート・プリントなど 定期考査
		4 章　環大西洋革命～工業文明と国民国家の誕生		○		○	a:産業革命・市民革命の前後で，生活や社会のあり方がどのように変化したかを，さまざまな視点から追究している。 b: 産業革命で変化した社会，およびアメリカ独立・フランス革命によって形成された「国民国家」は，従来とはどのような点で異なるのか説明できる。 c: 産業革命の展開や国民意識の広がりを，地図や図表などの各種資料を活用して指摘できる。 d: 産業革命による社会の変化のようすや，環大西洋革命によって国民意識が形成されていくことを理解している。	観察 発表 ノート・プリントなど 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。